

【文献紹介】

『海外留学がキャリアと人生に与えるインパクト
～大規模調査による留学の効果測定～』

横田雅弘・太田浩・新見有紀子編著（学文社）

Impact of Study Abroad on Career Development and Life

明治大学国際日本学部教授 **横田 雅弘**

YOKOTA Masahiro

(Professor, School of Global Japanese Studies, Meiji University)

キーワード：留学のインパクト、大規模回顧的質問票調査、非留学経験者との比較

留学の効果と意味を長期的な観点から問う大規模な回顧的追跡調査は、欧米では何度か行われてきたが、日本で本格的に実施されたのはこれが初めてとなる^{注1)}。留学は、外国語力を高めるといった直接的な効果だけでなく、社会人・企業人としての今にどう反映しているのか、人生において如何なる意味をもったのか。本書は、留学のもつキャリアと人生に対するインパクトを、長期的な観点から回顧的に評価してもらった大規模質問票調査(有効回答 4,489)の報告であり、留学をしなかった対照群(有効回答 1,298)との比較も交えて検証したものである。その結果は驚くべきものであった。

本書は大きく2部構成になっている。第1部では、今回の大規模な回顧的質問票調査の背景となる海外留学支援政策等の情報を整理して提供し、第2部で調査結果をまとめて分析している。具体的には、日本の海外留学支援政策、及び諸外国における海外留学のインパクトや効果に関する先行研究のレビューから始まり、海外留学の類型化と特徴をまとめたうえで、高校留学と学士課程留学の能力向上や意識の変化に関するインパクトを分析した。次に、キャリアや生活への満足、及びアジア市民や世界市民としての意識における海外留学のインパクトや効果を検証した。キャリアについては、雇用主(企業)の海外留学経験者に対する意識や見方についても調査結果をまとめた。最後に、海外留学のインパクトや効果に関する調査を生かした教育実践事例を報告した。

全12章の内容と執筆者は以下の通りである。

第1部 海外留学をめぐる研究と政策の動向

第1章：日本の海外留学促進政策の変遷（太田浩：一橋大学）

第2章：海外留学のインパクトに関する国内外の研究概要（新見有紀子：一橋大学）

第3章：留学効果分析のアプローチ～異文化適応力をテーマに～（花田真吾：東洋大学）

第2部 留学のインパクトに関する調査結果

第4章：グローバル人材育成と留学の長期的なインパクトに関する調査～その目的と方法～

(横田雅弘:明治大学)

第5章：留学の類型と特徴～3ヵ月以上の留学経験者データ分析に基づいて～

(渡部由紀:東北大学)

第6章：留学による意識と能力の変化～学部留学のインパクト～ (新見・渡部・秋庭裕子:一橋

大学・太田)

第7章：高校留学のインパクト (小林明:明治大学)

第8章：留学経験が収入や職業キャリアにもたらす効果 (新見・米澤彰純:東北大学・秋庭)

第9章：留学経験と生活満足度～留学経験者データの共分散構造分析 (新田功:明治大学・河村

基:エールバリュウ)

第10章：国際的市民意識に対する留学のインパクト (黒田一雄:早稲田大学)

第11章：留学のキャリア・雇用に関するインパクト～日本企業は留学経験者をどうみているか

～ (貝沼知徳:三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

第12章：実践編 Eポータルフォリオ学習成果分析と世代間交流～GJ5000プロジェクトと「留学

のすすめ.jp」 (芦沢真五:東洋大学)

(執筆者の所属は2018年3月30日発行日現在)

結果を見ると、留学を志した人が特別な人だったのではないか(元々優秀だった人が留学した)という可能性は配慮しなければならないとしても、大学の授業における積極的な参加、学外での活動(アルバイトは除く)、語学力の向上、忍耐力や柔軟性の涵養、世界観の変化等ほぼ全ての領域で、非留学経験者と比べて留学経験者が圧倒的に肯定的な回答をしている。特に、高校留学の経験者については、大学学部留学経験者に比べてもより肯定的であったことは興味深い。このほか、性別、学部・大学院別、正規留学と交換留学別、留学期間別など、多くの差について統計的検定も行っており、それぞれ興味深い結果が見られる。

現在の企業での職位や給与にも大きな差が現れていたが、同時に自分の留学経験が企業でどこまで活かされているかについては十分でないと考えていることも明らかになった。

また、生活満足度については、留学経験が現在の生活の満足に直結しているわけではないが、間接的に多様な側面から現在の私生活への満足に繋がっている。

留学の大衆化が進んで来た現在、そして将来、このような傾向がどこまで続くのかはわからないが、留学経験が人生にとって非常に大きなものであることは、この調査で明確になったと言えよう。なお、本調査のデータを用いた新たな分析も進んでおり、既に学会や学術雑誌等での報告が数多く行われているが、今後も発表が続いていく予定である^{注2)}。

注1) 本調査は2013～2015年度文部科学省科学研究費基盤研究(A)「グローバル人材育成と留学の長期的インパクトに関する国際比較研究」(研究代表者:横田雅弘)により実施された。

注2) 新見有紀子「日本人大学院留学生の授業関連活動への参加と能力・意識の高まり:自己評価に基づく質問票調査の結果より」『異文化間教育』47号, 2017年.

横田雅弘「留学の意思決定と人生における意味」『異文化間教育』48号(印刷中).

(291頁、学文社、3,500円+税、2018年3月)